わかば３３ヶ所巡り～第一回　初詣サイクリング～

2014/01/09

２０１４年の初めのサイクリングは初詣

「わかば３３ケ所巡り」と題するサイクリングの第一回目は、身近なお寺や神社を巡る初詣サイクリングです。訪れるのは、金光院（金親町）、寶泉寺（上泉町）、道祖神（上泉町）、淡島神社（下泉町）、姥嶽神社（谷当町）の５ケ所。これらは、千葉市観光協会が紹介する「若葉ルート」（※１）に沿ったところにあります。歩くには遠いし、公共交通機関（バス）は本数が少なくて不便だし、車を停める場所がないところもあり、ということで自転車で回るのがちょうどよいのです。

※１：　ガイドブック『千葉とっておき２０１３』（千葉市観光協会発行、１４－１５頁）で紹介された若葉区内のサイクリングルート。このルートについては、この「若葉区里山サイクリング便り」のVol.10 （『千葉とっておき２０１３』にサイクリングルート登場）でも紹介していますのでご参照ください。

【お願い】

ルートの選定にあたっては、子供連れの家族が走ることを想定して、国道・県道など交通量の多い道路を通行することは極力避けるとともに、そのような道路を横断する場合には、信号のある交差点を通るようにしています。しかし、すべてそうであるとは限りませんので、常に安全第一で行動してください。サイクリングによって生じた事故は自己責任でお願いします。

ルートマップ

【ルートマップの表示について】

次の地図は千葉都市モノレール千城台駅を起点・終点とするルートを示しています。

・　地図をクリックすると拡大・縮小可能な地図が表示され、地図の左の欄に距離、所要時間が記されています。

・　拡大・縮小は、地図の左にあるプラス（＋）ボタンまたはマイナス（－）ボタンをクリックすることにより行います。

・　地図の右下にある三角のボタンをクリックするとルートを自動的に辿り、位置と高低差のグラフの変化が表示されます。

・　地図にある吹き出しの上にマウスポインターを重ねると、その場所に関する情報が表示されます。

【ご注意】

上記の機能のためには、マイクロソフト社のSilverlightというソフトウェア（ブラウザーのプラグイン）をインストールしておくことが必要です。

千城台駅から金光院へ

【経路のあらまし】

千城台駅前（ショッピングセンター「ラ・パーク」）～「御成公園」～金親町の住宅街～御成街道を横断～金光院の山門横に通じる裏道～金光院

【道案内】

千城台駅前をイザしゅっぱーつ！ラ・パークの建物を反時計回りに回るかたちで進み、「千城台駅」交差点を左折する。

右にマンション、次いで小学校が見える。ここから先は、御成街道の危険区間（※２）を避けるために、住宅街を行くことにする。

次の信号で右折し、商店街を進む。

次の信号で左折する。

道が「く」の字に曲がったら次の角を右折。

前方に木々が見える。「御成公園」である。

御成公園に沿って進む。突き当たりを右折し次の角を左折。公園はここまで。

突き当りを右折し、信号で左折して進むと道は直角に曲がる。

ゴルフ屋の看板を左に見たら次の路地を左折。

「千城台東町自治会館」がある。道は右に直角に曲がる。

自治会館を回り込むかたちで左折し、右側に保育所の建物がある細道を進む。

T字路に突き当る。ここまでが千城台団地で、ここから先は金親町である。

T字路の突き当りを左折して少し行くと、真新しい広い道と交差する。

　注：この新しい道はまだ工事中だが完成すれば御成街道のバイパスとなる。

真新しい道を横断し、T字路の突き当りを左折。

１つ目の角、「金親自治会館」の手前を右折。

次の角を右折し、曲がりくねった細道に入る。

左側に大宮神社がある。さらに進むと御成街道に出る。

御成街道を右折し、すぐ左斜め前（東京ガスの施設の左）の道に入る。

金光院の裏道である。左に墓苑、前方に木立が見える。金光院の敷地に入ってゆく。

短い急坂を下ると金光院の山門の前に出る。

※２：　御成街道の「御成台１丁目」交差点から「金親町」交差点までの区間は、道幅が狭く、車が多く、見通しが悪いという３つの理由で危険区間といわざるをえない。

　そこで『里山サイクリング』では千城台団地と金親町の住宅地を通るようにしている。

　もし御成街道の代表的な景観として知られる長屋門の辺りを見たいなら、金親町の集落の細道を通って大宮神社の前で自転車を停めて、徒歩で参道を登り、裏手に回ると、御成街道の長屋門のある辺りに出る。

　車にとってもすれ違うことが困難なくらい狭く危険な道なので、現在バイパスの建設工事が進められているというわけである。

大宮神社（金親町）

道路新設工事（御成街道バイパス）

金光院（千葉市若葉区金親町）

【一口メモ】

庭にある桜は徳川家康ゆかりの桜。お寺は普通「山号・寺号」で呼ばれるが、この金光院の山号・寺号は何？（答え：「愛染山延命寺」）

【故事来歴】

金光院

弘法大師作の薬師如来を本尊とする真言宗豊山派の名刹である。

伏見天皇の正応二年（一二八九年）貞成上人によって金親村小字中原の地に開基されたがその後天文二十年（一五五一年）火災のため焼失したので千葉家の重臣小弓城主原式部太夫胤清が多大の寺領を寄進して現在の処に再建した。

慶長年間に至り徳川家康が東金街道を開拓ししばし鷹狩の際当寺に滞泊された関係上江戸時代の什宝及び古文書多数を所蔵するがなかでも市重要文化財に指定されている金剛胎蔵の両界曼荼羅、正応二年二月在銘の板碑徳川家康使用の衣服などが著名である。

老樹多く閑寂な境内には古雅荘重な諸堂が建ち並び千葉市郊外に於ける好適な散策地となっている。

（以上は地蔵堂の前にある石碑に刻まれた説明書きを転載したものである）

金光院から寶泉寺へ

金光院の参拝を終えたら寶泉寺へ向かう

【経路のあらまし】

　金光院～「御殿入口」交差点～「御茶屋御殿跡」～「御殿」交差点～県道６６号バイパスを横断～更級中学校～更科小学校前で県道６６号を横断～鹿島川に架かる上泉橋を渡る～寶泉寺

【道案内】

　金光院の山門の脇を通って真っ直ぐ進むと県道５３号に出る。

　県道５３号を左折して歩道を行く。

　「御殿入口」交差点を信号に従って右折する。

　再び御成街道である。道なりに進み「御殿」交差点を左折する。

　学校や企業のスポーツ施設が集まった「若葉スポーツゾーン」の中を通る道を下って行く。

　やがて道は細くなる。押しボタン式信号のある、県道６６号のバイパスとの交差点にでる。

　右向こうに更級中学校が見える。押しボタン式信号に従って横断する。

　更科中学の校舎に沿って進むと変則的な十字路にでる。左前方への道を進む。

　押しボタン式信号のある、県道６６号との交差点にでる。道の向こうには更級小学校が見える。

　信号に従って右折し、すぐに左折する。更級小学校の塀に沿って進む。

　右手にガードレールが見えたら、ガードレールに沿って、急坂（斜度３０度）を下る。

　田んぼの中を真っ直ぐに貫く道を行く。鹿島川に架かる「上泉橋」を渡って進む。

　田んぼの縁の道に突き当ったら右折して道なりに進む。

左手に寶泉寺の入り口がある。

【注意】

「県道５３号」は車が多い。歩道がないところは道路の左端に寄るように十分注意する。歩道があるところは必ず歩道を行くこと。

寶泉寺（千葉市若葉区上泉町）

【一口メモ】

参道の石段はちょうど１００段ある。頑張って上りましょう。

【故事来歴】

寶珠山　寶泉寺

京都の妙満寺（日蓮宗）の末寺である。創建については、慶応元年の火災延焼により、伽藍、宝物の消失のため詳らかでない。もと、上泉村富美にあって真言宗に属し、金親町の末寺であったという。

火災以前は、土気城主酒井定隆公の「七里法華」、日蓮宗の十ヶ寺に次ぐ八ヶ寺の名刹寺院であった。「本堂の

屋根に上がれば九十九里の浜が見え、縁の下は馬に乗って通れた。」との言い伝えがあり、本佐倉の経胤寺本堂（佐倉市重要文化財）は、当山の元本堂を真似て造られたとの説である。

　消失して以来一三十七年間仮設建物を使用していたが、檀信徒一同熱意の浄財勧募により、宗祖日蓮大聖人立教開宗の記念事業として、平成十三年四月二十八日、本堂、庫裏の新築落慶の法要が盛大に行われた。

　日蓮上人直筆の曼荼羅と岩富城一万石城主北條氏勝公の寄進状などがある。

（以上は境内にある説明書きを転載したものである）

寶泉寺から道祖神へ

寶泉寺の参拝を終えたら道祖神へ向かう

【経路のあらまし】

　寶泉寺～田んぼの縁を道なりに行く（白壁の蔵のある初芝家が目印）～道祖神

【道案内】

　寶泉寺へ来た田んぼの縁の道を戻り、道なりに進む。

　右手に白い壁の蔵が見える。門柱の表札には「初芝」と書かれている。

　初芝家の角に大木で覆われた小さなお社がある。それが道祖神である。

道祖神（千葉市若葉区上泉町）

【一口メモ】

「道祖神」はその土地の人々の守り神としていろいろな役割を担っている身近な神様。

道祖神から淡島神社へ

道祖神の参拝を終えたら淡島神社へ向かう

【経路のあらまし】

道祖神～県道５３号を横断～淡島神社

【道案内】

田んぼの縁の道を道なりに進む。

信号のない、県道５３号との交差点に達する。

注目：　交差点の手前、左に「若葉ルート」の標識（※３）がある。直進すべきことを矢印（↑）で指示している。

信号がない所なので十分に注意しながら県道５３号を横断する。

左斜めに向かう道を道なりに進む。

左前方の大きな家の屋根を見上げると金色に輝く鯱（しゃちほこ）が見える。

さらに道なりに進むと右側に淡島神社がある。

注３：　右の写真は県道５３号の手前に設置されている「若葉ルート」の標識。千葉市農政センターがボランティアの力を借りて制作。

「若葉ルート」の標識

淡島神社（千葉市若葉区下泉町）

【一口メモ】

境内にはその昔力試しに使われた（といわれる）卵形の「力石」がある。

【故事来歴】

淡島神社の由来

今から三百四十年前、人皇百十一代、後西天皇の御代、徳川四代将軍家綱公の時代、此処下総の国下泉村が幕府領であった万治四年（一六六一）三月、当村の在、小出孫兵衛が不思議な霊夢を感じ、小板を製し、これを山武郡土気本郷村の如意山本寿寺十三世大僧都日静上人に直筆を請い、この板曼荼羅を御本尊とし、小社を造営して勧請したのが起こりである。

嘉永五年（一八五二）に村社となり、その後、延命寺、寶泉寺の別当となった。
江戸中期からこの淡島様（淡島大明神）は、特に婦人病、安産、縁結の神として信仰され、また、針供養の神事も知られ、毎年一月三日と三月三日の縁日には遠く船橋、検見川、稲毛、寒川、生実などの方面からも多くの参詣者が訪れ賑わい、参道には出店が軒を連ねた。

明和六年（一七六九）に造営された社殿は、嘉永六年（一八五三）三月に火災により焼失した。この年の六月に

はアメリカの使節・ペリーが浦賀に来航している。現在の社殿は、桜田門外の変が起こった安政七年（一八六〇）に再建されたもので、内陣は精巧を極め、各種の御鏡や、大小の絵馬が数多く奉納されている。

　平成十二年（２０００）十月、二十一世紀を迎えるにあたり、氏子中を始め、当所に縁りある方々の奉賛により、社殿・拝殿の屋根を銅板葺に改修すると共に、門柱（六尺）、石鳥居（十尺）、狛犬（二尺五寸）、神前燈籠（六尺）などを奉納し、参道を敷石するなど境内の整備を行い、ここに完成をみた。

平成十三年（二〇〇一）三月

（以上は境内にある説明書きを転載したものである）

淡島神社から姥嶽神社へ

淡島神社の参拝を終えたら姥嶽神社へ向かう

【経路のあらまし】

　淡島神社～鹿島川の大木戸橋を渡る～左手に茶畑がある～田んぼの中の道を行く～谷当町の街中を行く～姥嶽神社

【道案内】

　淡島神社を後にして、田んぼの縁の道を道なりに行く。

　「若葉ルート」の標識に従って左折して田んぼの中の道を行く。

　大井戸橋を渡り、道なりに行く。

　途中、左にお茶畑を見た後、道は左にカーブする。

　「若葉ルート」の標識があるのでそれに従って右折し、田んぼの中の道を行く。

　田んぼの中の道を進むと十字路に「若葉ルート」の標識があるのでそれに従って右折する。

　T字路に突き当たる。そこに「若葉ルート」の標識があり右折する。

　曲折しながら田んぼの道を行くと谷当町の集落に至る。

　T字路の向こう側にある「若葉ルート」の標識に従って右折して進む。

　途中、左手に地蔵堂が見える。手前の路肩には「私の田舎」（谷当工房）の小さな看板がある。

　少し進むと十字路に出る。「若葉ルート」の標識は十字路を左折するように指示しているが直進する（※４）。

　すぐ先の二又の交差点を左に進む。

　少し進み細道を左に折れる。

道なりに進むと、木立の中に姥嶽神社がある。

※４：　直進する理由は、直接的には姥嶽神社に行くためであるが、ここで横断する道は千城台・御成台方面と佐倉・八街方面を結ぶ主要道路であり、交通量が多いので避けたいためでもある。

「若葉ルート」の標識（谷当町）

姥嶽神社（千葉市若葉区谷当町）

【一口メモ】

境内の石板に記されている故事来歴はこの地を身近に感じさせてくれる。

【故事来歴】

谷当町と姥嶽神社

　我が町千葉市若葉区谷当町は、千葉市の北東部、鹿島川の中流域に位置し、町内の台地には、志保田（しぼた）、上ノ台（うえのだい）、埜向（やむかい）、新小橋（しんこばし）等の縄文時代中期から平安時代にかけての遺跡が多数存在し、中小の集落が形成されていた。

　奈良時代末期には、岩富、根古屋等を中心に、千葉氏一族の豪族白井氏が開墾を進め、次第に鹿島川とその支流に領地を広げ、「白井荘」として一族に分与した。字埜向（俗称要害）にあった谷当砦には、この時代から長く、千葉氏一族の円城寺氏が居住し、旦谷、下田等の一帯をも支配していた。

　その後天正十八年（一五九〇）、徳川家康・豊臣秀吉連合軍が、小田原の北条氏を攻めた時、千葉氏は北条氏に加担したが、同年七月、北条氏は滅亡し、千葉氏も運命をともにした。同年八月、関東に入った家康は、北条氏勝を岩富城に入封させ、谷当もその支配下になった。貞享三年（一六八六）には佐倉藩領となり、幕末まで続いた。その後、更科村、泉町を経て、昭和三十八年千葉市に合併した。

　姥嶽（うばたけ）神社は、安永四年（一七七五）八月二十日に、村の守護神として、字西海道（現在地）に創建され、翌年十一月、社殿が再建された。御祭神は、神武天皇の御母、玉依姫命（たまよりひめのみこと）であり、子育ての神として崇敬されている。

　明治四十二年（一九〇九）九月二十九日、字台口（だいぐち）にあった日枝（ひえ）神社（大山　命・おおやまくいのみこと）と、字西海道の子之神社（大貴己命・おおなむちのみこと）を合祀した。

　境内には、大六神社（面足尊・おもだるのみこと）、嘉永元年（一八六八）六月の疱瘡（ほうそう）神社（大直日命・おおなおびのみこと）、愛宕（あたご）神社（迦具土命・かぐつちのみこと）、明治二十一年（一八八八）九月再建の天神社（菅原道真）、日枝神社、子之神社、大正三年（一九一四）四月建立の金毘羅大神に加え、金親彦左衛門等村人が寄進した地神塔（社日様、五社様）等の石碑がある。

　主な神社恒例行事

　正月　　新年祭　まんでらく（万歳楽）　おびしゃ（御奉射）　女びしゃ
　三月　　社日様
　四月　　春祈祷
　五月　　さなぶり
　七月　　虫送り　　みやなぎ（宮薙ぎ）　　ひもとき（紐解き）
　八月　　かざまつり（風祭り）
　九月　　社日様　千度参り　神のお立ち
　十月　　祭礼（二十一日）神のお帰り
　十二月　ひもとき
　毎月　一日　十五日　月次際（つきなみさい）

平成十年、町民相集い、住民の幸福と、町の繁栄を願い、新たな社殿の造営を志し、鳥居、参道を含む改築工事の竣工を機に、町の歴史と併せ、碑に刻む事とした。

千葉市立更科中学校長　本保弘文撰
千葉市若葉区谷当町姥嶽神社氏子一同之建

平成十二年十月　吉日

（以上は境内の石板にある説明書きを転載したものである）

姥嶽神社から千城台駅へ

姥嶽神社の参拝を終えたら千城台駅へ向かう

【経路のあらまし】

姥嶽神社～旦谷町の集落を通る～県道６６号～「谷当」交差点を直進して県道６６号と分かれる～「御成台１丁目」交差点で御成街道を渡る～千城台駅

【道案内】

姥嶽神社を後に、広い坂道を上る。

注目：　左手には「連合千葉の森」の看板が見える（連合千葉結成２０周年記念事業の一環）。

その先の三差路の標識は「旦谷町」が右方向にあることを示している。そこで右折して、旦谷町の集落へ向かう。

やがてT字路に差し掛かる。そこを左折して進むと広い道に突き当たる。旦谷町へ向かう前の道である。

広い道を右折して進む。

注目：　左手に「私の青空　成田空港・千葉若葉の森」の看板が見える（ANAは千葉県の里山活動協定認定第一号企業）。

すぐ先に三差路があり、向こうの角に「若葉ルート」の標識がある。ここで再び「若葉ルート」と合流する。

注意：　姥嶽神社に向かう道の十字路で「若葉ルート」の標識が左折を指示していたが直進したことを思い出していただきたい。通らなかった区間は、曲がりくねり、見通しが悪く、車が多く、坂もきつい。さて、旦谷町を経て再び「若葉ルート」と合流したところに話しを戻す。

すぐに県道６６号に突き当たる。左折して、ガードレールの手前の歩道を行く。

注意：　県道６６号は、ちょうどここでカーブしている。車からすると見通しは悪い。おまけに道幅は狭い。自転車にとって危険極まりない。よって、ここからはガードレールで防護されている歩道を走る。幸いなことに歩道はアスファルトで走りやすい。

道なりに進み、「谷当」交差点を信号に従って直進する（県道６６号は左へ折れる）。

ここからは御成台のメインストリートである。この道をどんどん行く。

やがて「御成台１丁目」交差点に出る。そこは御成街道との交差点である。

御成街道を横断し、直進すると間もなく「千城台駅」交差点に着く。

連合千葉の森（千葉市若葉区谷当町）

「私の青空　成田空港・千葉若葉の森」